

田原本町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況

資料3-2

基本目標 1 賑わいと活力があふれる「しごとづくり戦略」

数値目標の評価

指標名	単位	R2年度 基準	R4年度 目標 実績	R5年度 目標 実績	R6年度 目標 実績	R7年度 目標 実績	R8年度 目標	R4年度の目標達成度 S・A・B・C・D	R4年度の取組評価 (成果、課題)	R5年度以降の取組方針	担当課
事業所等の開設件数	件	38	32 43	32	32	32	32	S: 目標値を超えて達成	企業誘致や商工会との連携による創業セミナーや個別相談等の創業支援を推進。	新規創業に加え、副業に対する支援に取り組んでいく。	地域産業推進課
商工会加盟事業者数	事業者	547	560 564	560	560	560	560	S: 目標値を超えて達成	商工会によるインボイス制度の導入や副業等に対する支援が加盟者数増に繋がった。	デジタルツールを使った中小企業者への情報発信や、商工会・金融機関と連携した個社支援に取り組む。	地域産業推進課

KPI (重要業績評価指標) の評価

施策	指標名	単位	R2年度 基準	R4年度 目標 実績	R5年度 目標 実績	R6年度 目標 実績	R7年度 目標 実績	R8年度 目標	R4年度の目標達成度 S・A・B・C・D	R4年度の取組評価 (成果、課題)	R5年度以降の取組方針	担当課	
(1) 事業者支援	①企業誘致の推進	雇用促進奨励金の交付対象となった従業員数(累計)	人	6	6	8	10	12	14	A: 80%~100%の達成	企業立地条例を改正し、奨励金の交付要件を緩和。	立地希望事業者への丁寧な制度説明を行っていく。	地域産業推進課
	②中小企業の経営支援				6								
	③ブランド力の強化	中小企業資金融資件数	件	7	20	30	40	50	50	S: 目標値を超えて達成	コロナ関連融資の借り換え等のため、今後、更なる町融資制度の利用が見込まれる。	企業の資金繰りの円滑化のため、金融機関と連携して、速やかな制度運用に努める。	地域産業推進課
	④商業の活性化支援				48								
		果で認定された大和野菜の生産品目数(累計)	件	1	2	2	2	2	2	2	C: 20%~60%未満の達成	新たに大和野菜に認定されるためには、農産物の歴史的な背景等の要件を満たすなどの課題がある。	引き続き、認定を受けている大和野菜のPR活動を行い、ブランド力の強化に取り組むとともに、新たな伝統野菜の抽出に努める。
	特産品等の開発件数	件	R4年度から開始	3	3	3	3	3	3	D: 20%未満の達成または全くできていない	特産品等の開発費用に対する補助金制度を施行。制度を広く周知し、開発を促進する。	ふるさと納税の返礼品提供事業者等への制度周知を図る。	地域産業推進課
(2) 人材確保・育成	①農業の担い手の育成	認定新規就農者数(累計)	人	9	11	12	13	14	15	A: 80%~100%の達成	令和4年度は、新規就農する農業者がいなかった。新規就農者の希望条件に合った農地を探すことが課題となっている。	農業経営を行っていくうえで、設備投資等を行いやすくするよう、引き続き、制度資金の活用に向けた取り組みを行う。	地域産業推進課
	②起業の支援				11								
		農地バンク登録農地数(累計)	筆	2	8	15	17	19	20	S: 目標値を超えて達成	あらゆる機会をとらえて、農地バンク制度について、広く周知した結果、登録農地数が増加した。	引き続き、登録農地数を増やすとともに、売り手と買い手との成約数の増加に努める。	地域産業推進課
		認定農業者数(累計)	人	49	51	52	53	54	55	A: 80%~100%の達成	意欲のある農業者に対して、今後5年間の「農業経営改善計画」を作成し、町へ提出するよう働きかけている。	引き続き、地域農業の担い手となる認定農業者の増加に努める。	地域産業推進課
		人・農地プランを実質化した数(累計)	団体	3	5	6	7	8	9	B: 60%~80%未満の達成	人・農地プランの実質化に向けて、新たに2地区の農家に対して、アンケート調査を行うなど、実質化に向けて作業を行った。	令和5年度からは、人・農地プランが新たに「地域計画」として位置付けられるため、その策定に向けて取り組む。	地域産業推進課
	推進する作物の耕作面積	ha	0.9	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	B: 60%~80%未満の達成	「味間いも」は、連作障害が起こることから、新たな生産地の確保が難しく、生産量の確保が課題である。	引き続き、「味間いも」の生産拡大に向けて取り組む。	地域産業推進課	

田原本町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況

基本目標2 つながりを楽しむ新たな人の流れを創る「つながりづくり戦略」

数値目標の評価												
指標名	単位	R2年度 基準	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度 目標	R4年度の目標達成度 S・A・B・C・D	R4年度の取組評価 (成果、課題)	R5年度以降の取組方針	担当課	
			目標 実績	目標 実績	目標 実績	目標 実績						
社会増減数	人	91	0	0	0	0	0	S: 目標値を超えて達成	R元年からプラスに転じ、ここ数年は90人程度で推移している。	今後も社会増を定着させるため、人とのつながりをつくる取組を継続して実施する。	企画財政課	
			84									
来訪者数	人	287, 264	445, 000	445, 000	445, 000	445, 000	445, 000	S: 目標値を超えて達成	旅行支援政策や近年開催が見送られていたイベントの開催等により、多くの方に来訪いただくことができた。	一体的な管理運営が始まる道の駅と史跡公園を中心として、イベントの開催等により来訪者増に取り組む。	地域産業推進課	
			500, 778									

KPI (重要業績評価指標) の評価

KPI (重要業績評価指標) の評価													
施策		指標名	単位	R2年度 基準	R4年度 目標 実績	R5年度 目標 実績	R6年度 目標 実績	R7年度 目標 実績	R8年度 目標	R4年度の目標達成度 S・A・B・C・D	R4年度の取組評価 (成果、課題)	R5年度以降の取組方針	担当課
(1) 移住・定住支援	①定住支援の補助	定住支援に伴う補助認定世帯数(累計)	世帯	15	33	42	51	60	69	S: 目標値を超えて達成	アンケート調査等により、定住支援補助制度の利用を考慮し、町に住むことを決めた方が複数おられることが確認できた。中でも、家賃補助制度(移住)を利用する方がいることは喜ばしい。ただ、その利用者等を定住に繋げられているのかは改めて考察する必要がある。	「町に定住したい」と感じていただけるまちづくりについて、利用者等から情報収集を行い、その他補助制度の新規運用及び改正等を踏まえ、検討していく。	まちづくり建設課
					39								
	②空き家の利活用促進	空き家等の適正管理・空き家バンク売買等成立件数(累計)	件	20	40	50	60	70	80	S: 目標値を超えて達成	7件の空き家等について適正な管理通知を送付した結果、所有者の7割近くは早急な対応をいただき改善できた。ただ、最近では、以前に改善された空き家等について、維持管理を継続していただかず、元の状態に戻っている空き家等がみられる。	空き家等を継続的に適正管理するための対策に加え、民間事業者、地域、自治会等と連携し、利活用を推進していくための取り組み方について検討していく。	まちづくり建設課
					45								
(2) 交流人口創出	①観光の受け入れ体制の強化	奈良県広報誌・新聞・フリーペーパー等を活用した発信件数	件	136	138	141	144	147	150	A: 80%~100%の達成	目標値をおおよそ20%下回る結果となった。これは新型コロナウイルス感染症による悪影響のため、感染防止のための各種制限やイベントの中止など活動規模縮小の傾向が続いたこと、情報発信機会が減少したことによるものであると考える。	引き続き、町や地域の取組の発信を行っていく。新型コロナウイルス感染症の5類移行により、各種事業・イベントの再開が進むことが予想される。庁内各課はもちろん、まちづくり観光振興機構や史跡公園、道の駅レスティ唐古・鍵との連携による情報の共有・補完を進め、情報を逃さず発信していく。	秘書広報課
					115								
	③歴史資源を活かした交流の促進	唐古・鍵遺跡史跡公園の来園者数	人	69, 342	90, 000	90, 000	90, 000	90, 000	90, 000	S: 目標値を超えて達成	令和5年度からの第2期指定管理者の選定が完了し、道の駅レスティ唐古・鍵と一体運営することになった。また、イベントや学校の校外学習等を積極的に誘致し、目標を大きく上回る来園者数となった。	道の駅レスティ唐古・鍵との一体運営により、中南和地域の観光の玄関口にある史跡公園として、歴史をテーマとしたイベントをはじめとして多彩なイベントが開催されるように努める。	文化財保存課
					167, 942								
	④イベントによる交流の促進	唐古・鍵考古学ミュージアムの来館者数	人	5, 741	6, 000	6, 000	6, 000	6, 000	6, 000	S: 目標値を超えて達成	ワークショップ・企画展等を充実させるとともに、唐古・鍵バーチャルミュージアムをはじめとしたWeb媒体や紙媒体での積極的な情報発信を行うことで、来館者増を図る。	新型コロナウイルス感染拡大に伴う規制も徐々に緩和され、来館者数は前年度比約2, 000人増となった。	文化財保存課
					7, 909								
	他団体や民間等との連携によるPRイベント等の実施、出展回数	回	1	5	5	5	5	5	S: 目標値を超えて達成	令和4年にオープンしたなら歴史芸術文化村においてイベントを開催するなど、コロナ禍においても新たな取組を実施した。	新型コロナの5類移行により、イベント等の開催がより活発化することが予想されるため、対面でのPRに注力していく。	地域産業推進課	
				7									
(3) 関係人口創出	①ふるさと応援寄附金の推進	ふるさと応援寄附金の件数	件	2, 530	3, 400	3, 800	4, 200	4, 600	5, 000	S: 目標値を超えて達成	町内事業者への訪問による返礼品ラインナップ強化等が奏功した。	ポータルサイトの追加や中間事業者の見直し等により、更なる寄附増を図る。	地域産業推進課
					3, 574								

田原本町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況

基本目標3 結婚・出産・子育てをまち全体で支える「子育て環境づくり戦略」

数値目標の評価											
指標名	単位	R2年度 基準	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度 目標	R4年度の目標達成度 S・A・B・C・D	R4年度を取組評価 (成果、課題)	R5年度以降を取組方針	担当課
			目標 実績	目標 実績	目標 実績	目標 実績					
年少人口	人	3,768	3,662	3,607	3,528	3,457	3,388	S: 目標値を超えて達成	就学前の子育て支援策として町独自の取組を実施している。	田原本町に定住し、安心して子どもを産み育てられるよう更なる子育て支援策の展開を模索する。	こども未来課
			3,707								

KPI (重要業績評価指標) の評価

施策	指標名	単位	R2年度 基準	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度 目標	R4年度の目標達成度 S・A・B・C・D	R4年度を取組評価 (成果、課題)	R5年度以降を取組方針	担当課	
				目標 実績	目標 実績	目標 実績	目標 実績						
(1) 結婚・妊娠・ 出産支援	①結婚支援 ②子どもと親の 健康確保	新婚世帯への住宅取得等 支援件数	件	R3年度 から 開始	5	5	5	5	5	C: 20%~60%未満 の達成	ホームページやSNSを活用した周知を行った結果、事業の問い合わせも複数あったが、条件をクリアして申請した対象者が2件に留まった。	既に転入を検討している方からの条件等の問い合わせがあり、対象条件の緩和(取得上限500万)等により対象が増える見込みのため、申請できる時期等見直す予定である。	こども未来課
					2								
	生後4ヵ月までの 乳児の把握率	%	100	100	100	100	100	100	A: 80%~100%の達成	こんにちは赤ちゃん訪問や新生児訪問等により、例年100%の乳児とその保護者と面談実施。入院中の乳児についても保護者や医療関係者等との連携のもと実施している。	令和4年2月から実施している伴走型支援事業により相談と経済的支援を両輪で実施。より充実させていく方向。	こども未来課	
				100									
(2) 保育・教育環境 充実	①保育・幼児教育の 提供体制の充実	待機児童数	人	4	2	0	0	0	0	A: 80%~100%の達成	令和5年2月に新規の認可保育所を整備したことで、国基準の待機児童数は減少した。	出生数は減少しておらず、保育ニーズは増えているため、ハード面として令和6年4月開設予定の小規模保育所の整備、ソフト面として保育士確保策等に取り組んでいく。	こども未来課
					2								
	③教育の推進	ファミリーサポート 登録者数	人	32	56	56	56	56	60	S: 目標値を超えて達成	赤ちゃん訪問等での案内の実施等、周知の機会が広がり、登録者数及び利用者数が増え、援助活動は637日と増えている。	定期利用する依頼会員が増加しており、援助会員を増やす取組が求められる。地域子育て支援拠点等との連携事業等により、更に援助会員を増やし、事業の充実を図る。	こども未来課
					84								
	自己肯定感を感じている 子どもの割合	%	76.34 (R3)	78	78	79	79	80	A: 80%~100%の達成	一人ひとりの意見を大事にするような授業のあり方を旨とした。お互いの良さを合わせ、より良い集団づくりに至っていない。	自らの良さに気づき、自ら進んで実践しようとする態度を育てるための取組を進めていく。	教育総務課	
				74.78									
	他者との協働や共生について 考えている子どもの割合	%	49.21 (R3)	51	52	53	54	55	S: 目標値を超えて達成	「コミュニケーション能力を高める授業の工夫」に取り組んだ。人の話を聞く時や自分の意見を発言する時の区別ができてきているが、自分の考えや意見を発言する力が弱い傾向にある。	互いに認め合うことができる子どもの育成を目指し、授業の工夫に取り組む。	教育総務課	
53.45													
学校教育における ICT機器の活用	%	92.64 (R3)	93	94	95	95	95	A: 80%~100%の達成	小学校の一部児童が使用するタブレットについて、他と同様の規格とする更新を行った。	今後も機器更新など適切に環境整備を行うとともに、ICT教育を推進する。	教育総務課		
			92.17										
おはなし会への参加者数	人	443	450	500	500	500	500	S: 目標値を超えて達成	コロナの影響が僅かな程度に留まったため、参加人数がコロナ以前に戻りつつある。	規則の改正があり、利用者が減る可能性が高いため、現状の維持を目的としつつ、コロナ前の参加人数を目指す。	図書館		
			676										

KPI（重要業績評価指標）の評価

施策	指標名	単位	R2年度 基準	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度 目標	R4年度の目標達成度 S・A・B・C・D	R4年度の取組評価 (成果、課題)	R5年度以降の取組方針	担当課	
				目標 実績	目標 実績	目標 実績	目標 実績						
(3) 地域の 子育て力強化	①経済的支援の充実 ②相談支援と 情報提供体制の充実	副食費助成対象人数	人	279	285	290	290	290	290	S：目標値を超えて 達成	令和4年10月より副食費の助成上限を 月5,100円に増額した。また、令和5 年2月から認可保育所が開設し、対象 者が増加したことにより実績が増え た。	保育所整備が落ち着いたら、一旦助 成者数は大きくは増えないが、町独 自事業として、助成を継続してい く。	こども未来課
					314								
	③すべての子どもの 見守りと支援の推進	地域子育て支援拠点 利用者数	人	4,807	11,211	11,379	11,504	11,619	11,735	B：60%～80%未満 の達成	令和3年度に続き、新型コロナウイルス 感染症対策として、利用人数を制 限し実施していたため、利用人数が 目標数に満たなかった。	同じ境遇にいるグループを繋げる場 としての交流促進の実施や令和5年 度より地域支援の事業実施として、 訪問型の相談支援の取組等により、 ひろばの周知や個別支援の取組の展 開を推進していく。	こども未来課
					6,820								
	ファミリーサポート 登録者数（再掲）	人	32	56	56	56	56	56	60	S：目標値を超えて 達成	赤ちゃん訪問等での案内の実施等、 周知の機会が広がり、登録者数及び 利用者数が増え、援助活動は637日と 増えている。	定期利用する依頼会員が増加してい り、援助会員を増やす取組が求めら れる。地域子育て支援拠点等との連 携事業等により、更に援助会員を増 やし、事業の充実を図る。	こども未来課
					84								
	児童相談件数	件	230	235	240	245	250		255	B：60%～80%未満 の達成	虐待の登録ケースの終了が多く、新 規登録が例年より少なかったため に、全体的に管理ケースが減少した ように見える。	児童虐待の予防の取組の1つとし て、令和5年度より保護者支援の全 5回のペアレントトレーニングを実 施している。今後も関係機関と連携 しながら虐待予防の取組を推進す る。	こども未来課
					181								

田原本町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況

基本目標4 暮らしを楽しむことができる「安心・安全まちづくり戦略」

数値目標の評価												
指標名	単位	R2年度 基準	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度 目標	R4年度の目標達成度 S・A・B・C・D	R4年度の取組評価 (成果、課題)	R5年度以降の取組方針	担当課	
			目標	実績	実績	実績						実績
自治会加入率	%	91.4	91 90.4	91	92	92	93	A: 80%~100%の達成	自治連合会の研修や各種補助金の交付等、自治会活動の魅力向上に努めたが、加入率は減少となった。	引き続き、自治会組織・運営を強化し、活動を活性化させ、加入率の増加に向けて新規転入者等への加入を促す。	総務課	
65歳以上の要支援・要介護認定を受けていない人の割合	%	84.2	83 84.7	82	82	81	81	S: 目標値を超えて達成	高齢者のADL自立の維持を旨とし、地域の通いの場等での社会参加の支援や包括支援センターによる個別支援を実施している。また、介護給付の適正化に向け、町民への啓発や関係者向けの研修・個別支援等を実施しており、より適切な介護給付に努めている。	今後も取組を継続していくなかで、介護保険制度に対する正しい知識の普及啓発と給付の適正化を図るとともに、高齢者が地域で活躍できる体制づくりに努める。	長寿介護課	

KPI（重要業績評価指標）の評価

施策	指標名	単位	R2年度 基準	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度 目標	R4年度の目標達成度 S・A・B・C・D	R4年度の取組評価 (成果、課題)	R5年度以降の取組方針	担当課	
				目標	実績	実績	実績						実績
(1) 協働のまちづくり	①コミュニティ活動の支援 ②官民連携の促進	青垣生涯学習センター・弥生の里ホールの利用件数	件	2,932	2,960	2,980	3,000	3,020	3,040	S: 目標値を超えて達成	コロナに伴う制限を緩和したことなどにより貸館件数が増加し、目標値を上回ることができた。	生涯教育のニーズに合った公民館教室の開催やより集客が見込める自主事業の検討など、センターの活性化を図っていく。	生涯教育課
					4,678								
	③行政と暮らしのデジタル化の推進	町内の体育施設の利用件数	件	4,405	3,100	4,630	4,710	4,790	4,870	S: 目標値を超えて達成	ワクチン接種会場の使用想定で件数減を見込んでいたが、アリーナを半面利用可能にしたことなどにより目標値を上回ることができた。	ワクチン接種による使用制限がなくなり、より充実した各種スポーツ教室や事業を実施し、スポーツの普及・啓発を図っていく。	生涯教育課
					3,724								
	連携協定等の件数(総数)	件	92	105	110	115	120	125	S: 目標値を超えて達成	R4年度に9件の締結があった。	今後も企業や団体等の知見を活用した課題解決を目指し、様々な分野での協定を進める。	企画財政課	
				121									
	行政デジタル化事業数	事業	3	4	5	6	7	8	A: 80%~100%の達成	令和4年度のRPAでの業務削減時間は約875時間であった。課題としては担当課からの積極的な活用を促す必要がある。	先進自治体の活用事例を周知するなど、担当課のRPA活用意欲を促進する。また、根本的なことであるが、RPAとは何か、ということを仕組みとともに再周知する。	総務課	
				4									
(2) 健康と安全のまちづくり	①ヘルスケアプロジェクトの推進 ②高齢者の生活支援	健幸ポイント事業参加者数	人	513	1,830	2,150	2,440	2,700	2,930	A: 80%~100%の達成	チラシ、ポスター、広報紙、町ホームページ、LINE等で周知を行い、参加者を募集した。また、継続参加者についても各種イベント等を通じて継続参加を促した。	引き続き、各種媒体での周知により新規参加者を募集するとともに、継続参加者へ向けても各種イベントの実施やこまめな情報発信を行うことで継続率向上に努める。	長寿介護課
					1,830								
	③防災対策の充実	シルバー人材センター登録者数	人	245	257	270	272	275	278	A: 80%~100%の達成	広報紙へのチラシ挟み込み等、シルバー人材センターの周知を継続しているが、登録者数は全国的に伸び悩む傾向で、磯城郡も同様の状況である。	シルバー人材センターの登録者増への取組として、活動及び求人への周知を継続していく。ただし漠然と行うのではなく、活動の内容や当センターで働く魅力等具体的に周知していく必要がある。	長寿介護課
					250								
	いきいき百歳体操参加登録者数	人	539	1,000	1,015	1,030	1,045	1,060	B: 60%~80%未満の達成	新型コロナウイルス感染症により、活動を中止する団体もあったが、包括支援センターの職員が感染防止の下、活動する重要性を伝え、再開する団体もあった。	いきいき百歳体操の普及啓発に努めるとともに、活動の継続支援として、90歳以上の人で活動を継続している人を表彰するいきいき百歳体操元氣交流会を実施する。	長寿介護課	
				704									

KPI（重要業績評価指標）の評価

施策	指標名	単位	R2年度 基準	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度 目標	R4年度の目標達成度 S・A・B・C・D	R4年度の取組評価 (成果、課題)	R5年度以降の取組方針	担当課
				目標 実績	目標 実績	目標 実績	目標 実績					
	タワラモトンタクシー利用実人数	人	2,390	2,900	2,950	3,000	3,050	3,100	A：80%～100%の達成	申請方法の多様化を図った。R4年10月からは総合窓口での受付を開始した。コロナによる外出控えがみられた時期に比べると少し増加したが、未取得の方への制度周知が必要。	R5年4月から日曜日・祝日・年末年始も利用日とした。制度周知に加え、新たな交通との棲み分けを踏まえながら、真に必要な方が利用できる制度へと見直す。	企画財政課
				2,653								
	防災フェスタ来場者数	人	1,800	1,900	1,900	2,000	2,000	2,100	S：目標値を超えて達成	天候不順もあったが、目標人数を大幅に超える来場者があり、イベントとして町内外から広く認知されてきている。今後、来場者に防災意識をもって参加してもらえよう、内容を再検討していく。	防災に関する情報発信や体験を通して地域住民へ災害への対策意識をもってもらえよう、フェスタだけでなく訓練等も検討しながら、引き続き実施していく。	防災課
				2,500								
自主防災組織登録数	団体	78	80	80	81	81	82	A：80%～100%の達成	町内の自治会のうち約8割程度で自主防災組織を設立することができた。今後は設立していない自治会に対して設置の支援等を行い、地域の防災意識の向上に努めていく。	昔から水害が多い地域では防災意識も高いため、設立済みであり、活発に活動している自治会が多い。それ以外の自治会に対しては、水害だけでなく、地震等の大規模災害の備えの重要性や共助による減災例等を発信し、啓発活動を行っていく。	防災課	
			79									
住宅耐震化率	%	86.1	89.7	91.4	93.2	95.0	96.7	A：80%～100%の達成	耐震フォーラムの開催や町広報紙での耐震特集等による周知啓発により無料耐震診断は6件の実績となったが、耐震改修補助制度の活用は0件だった。	耐震に係る補助制度の対象拡大等、住宅の耐震化を進めやすくするよう制度の拡充を行うとともに、更なる周知・啓発を行う。	まちづくり建設課	
			87.9									